傾向と対策　―2016 年度用

駒場東邦中学

「傾向と対策」について

ここでは、国語入試問題について、さまざまな要素から、その学校の出題の傾向を過去 10 年にさかのぼって具体的に明らかにしています。試験問題で課されている能力を分析して、どのような学習をすればよいのかを対策として示すことにします。

学校によって、試験の考え方は異なります。どのような能力を試そうとしているのかを明らかにすることで、入試の対策の学習も具体的かつ効果的に進めてゆくことができるでしょう。一般に入手できない資料的な価値もあると自負しております。受験指導の一助となれば幸いです。

佐藤友樹

目　次

1　2015 年度の入試問題について
2　駒場東邦中の国語――７つの特色と対策
①「出題形式は変化なく、毎年安定している」
②「超長文の物語の読解問題のみ出題」
③「過去に出題されたことのない文学作品を選ぶ」
④「主人公は小学生、心情の変化に富んだ内容」
⑤「読解問題は半分が記述解答」
⑥「漢字書き取り問題は 15 問」
⑦「語句知識の問題は必ず出る」

Copyright © Tomoki Sato. All Rights reserved.

1　2015 年度の国語入試問題について。

１　物語文（試験時間・６０分）

出典	岩瀬成子「アスパラ」(『くもりときどき晴レル』理論社　2014/02)
本文内容	「アスパラ」は、小学二年生の男の子のあだ名。語り手である「わたし」は小学５年生の女の子で男の子のいとこにあたる。「アスパラ」は、両親が離婚して、祖父母の家にあずけられている。不幸な境遇にあっても、いつもニコニコしている「アスパラ」の心の中は、周囲の大人たちよりも「わたし」がわかっていると思い、お姉ちゃんになってあげたいとまで考えている。物語は、大人たちの事情に振り回される「アスパラ」の言動が話題の中心となり、それを温かく気遣いながら見守る「わたし」の語りによって進行する。
設問	設問数　13　（解答数　33） １　漢字書き取り　15 ２　副詞（擬態語・空欄・選択式）　5 ３　語句の意味（選択式）　3 ４　傍線部説明（記述３０字）　1 ５　傍線部説明（理由・選択式）　1 ６　傍線部説明（理由・記述２５字）1 ７　傍線部説明（心情・記述５０字）1 ８　傍線部説明（理由・記述７０字）1 ９　傍線部説明（文中語句指摘）　1 10　傍線部説明（文中語句指摘）　1 11　傍線部説明（理由・選択式）　1 12　傍線部説明（表現説明・選択式）1 13　傍線部説明（心情・記述 100 字）1
概評	合格者平均点（受験者平均）が、120 点満点の 81.5 点（75.8 点）で、前年の 61.8 点（57.3）より 20 点アップしました。例年 70 点前後なので、受験生にとっては解きやすい問題となっていたようです。今年の本の作者・岩瀬さんは児童文学の書き手で、大人も子供も読めるというスタンスで書いてはいても、子供にわからない「大人の事情」はあまり書き込んでいません。子供にもわかるように書いていこうという作者の意思が強く働いている作品なので、読み取りに難しさがなかったのだと思われます。得点の大半を占める記述問題のできのよしあしで差がつきます。たとえ問題文が読みやすいからといって、字数制限のある記述のまとめ方が易しいとは限らないので、駒場東邦の国語問題のハードルを超えるには、記述力を鍛えることは大切なポイントになります。

Copyright © Tomoki Sato. All Rights reserved.